



県央・湘南の 環境と共生する都市づくり

No.31

NEWS ○ 2012.3

● 新幹線新駅の実現をめざす、環境共生の都市づくり通信 ●

NEWS 環境共生モデル都市「ツインシティ」の取組状況

P2

相模線・新幹線新駅・リニアの同盟会が共同で講演会「鉄道整備と地域の将来」を開催しました

P3~4

平成23年度「夢はこぶ新幹線・夢ひらくまち」絵画コンクール

P5

ツインシティにおける環境と共生するまちづくりに向けた事例研究として、現地視察を行いました

P6

平成23年度「夢はこぶ新幹線・夢ひらくまち」絵画コンクール

神奈川県知事賞受賞作品



✿ 低学年の部 武藤 広透さん (平塚市立吉沢小学校1年)

✿ 高学年の部 小林 七海さん (平塚市立港小学校5年)



✿ 中学年の部 植木 拓海さん (寒川町立寒川小学校4年)

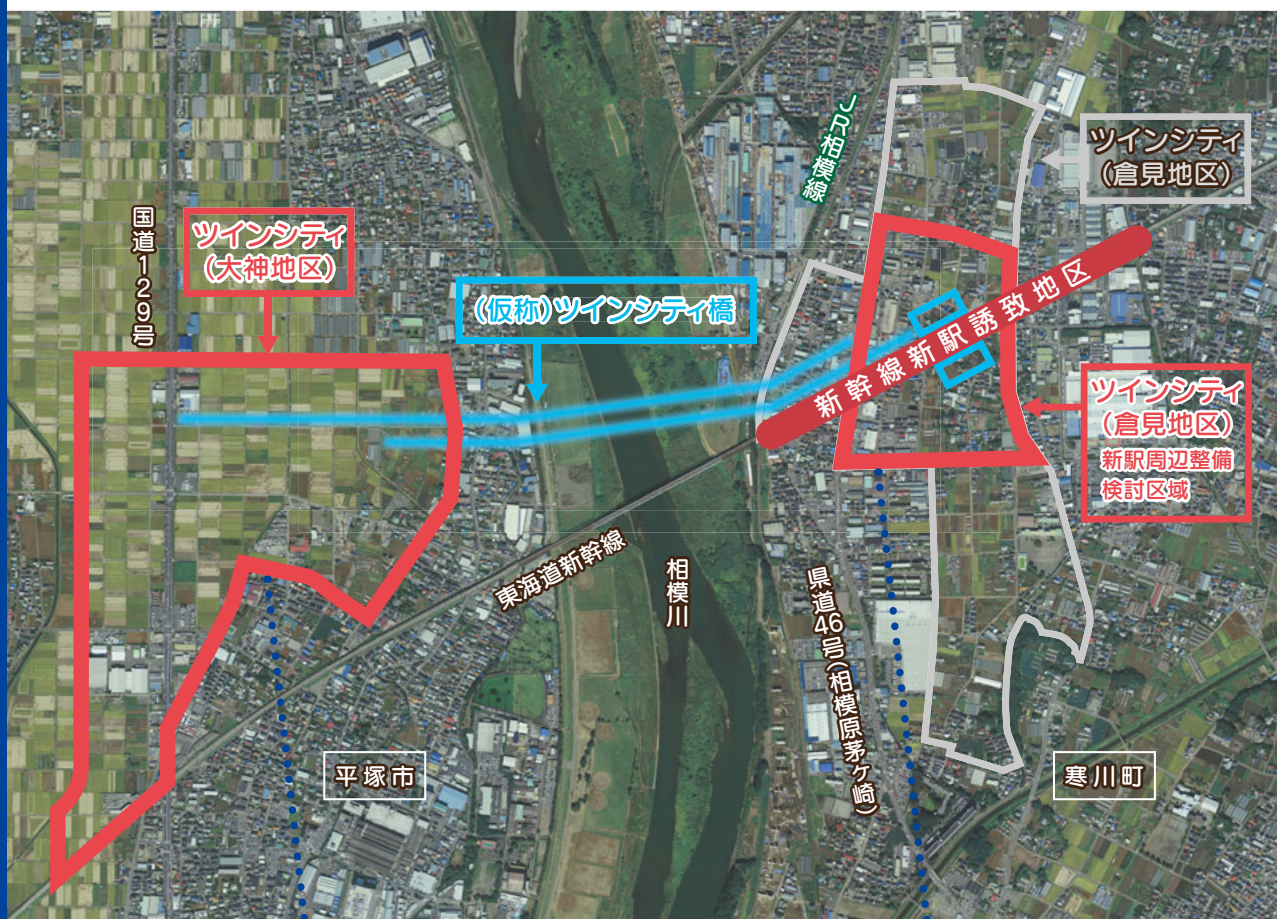


神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会

神奈川県、相模原市、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、厚木市、伊勢原市、海老名市、座間市、綾瀬市、寒川町、県市長会、県町村会、県商工会議所連合会、県商工会連合会

「ツインシティ」は、新駅を誘致する「寒川町倉見地区」と相模川対岸の「平塚市大神地区」とを「仮称ツインシティ橋」でつなぐ、「東海道新幹線新駅」の受け皿となる新たなまちで、広域的な交流と連携の窓口となる都市の形成のため、当面の目標である都市計画決定を目指して取り組んでいます。

ここでは、両地区における面整備の現在の取組状況を紹介します。



ツインシティ(大神地区)の状況

平塚市では、土地利用の方針や主要な道路などを示した「ツインシティ大神地区まちづくり計画(素案)」を策定し、平成24年1月から2月にかけて、パブリックコメントを実施しました。

また、「ツインシティ大神地区土地区画整理組合設立準備会」では、地区別説明会及び勉強会を随時開催し、土地区画整理事業の事業化に向けた検討を進めています。

ツインシティ(倉見地区)の状況

寒川町では、平成22年度から引き続き、新駅周辺整備検討区域を中心に、まちづくりへの理解を得るため、地権者を戸別に訪問し、意向の把握を行っています。

また、「まちづくりは地域主体で、町民の意見を十分踏まえて進めていく。」との町長の考えから、平成23年10月末、地元組織と町長との意見交換会が開催され活発な議論が行われました。

相模線・新幹線新駅・リニアの同盟会が共催で講演会「鉄道整備と地域の将来」を開催しました

「神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会」は、県央・湘南地域の鉄道網整備に向けて、「リニア中央新幹線建設促進神奈川県期成同盟会」及び「相模線複線化等促進期成同盟会」と共催で、講演会「鉄道整備と地域の将来」を相模原において、開催しましたので、概要をご紹介します。

日時	平成23年11月13日(日) 13:30~16:00
会場	サン・エールさがみはら 2階ホール
主催	相模線複線化等促進期成同盟会 神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会 リニア中央新幹線建設促進神奈川県期成同盟会
参加者	170名
概要	・主催者あいさつ 相模原市 小星副市長 ・活動紹介 相模線同盟会事務局から3同盟会の活動紹介を行いました。 ・講演 ①「相模線物語」 サトウ マコト 氏(「相模線物語」著者) ②「鉄道ネットワークと沿線地域のまちづくり」 東京工業大学大学院総合理工学研究科 屋井 鉄雄 教授

講演①概要



【県内の鉄道建設】

明治5年に東京の新橋から横浜の桜木町まで鉄道ができたことで、日本中が鉄道ブームに入り、明治20年代から40年代に各地で次々と鉄道誘致運動が起こった。今は地方自治体が誘致運動の中心となっているが、当時は村長や資力のある人が、

自分たちのお金を出資して、政府に申請を何度も繰り返しながら、鉄道を実現していった。

神奈川県においては、明治41年に東神奈川から八王子に行く横浜鉄道が実現し、その後、東京から小田原、御殿場線を通して沼津・静岡へ入っていく東海道線が実現した。そして、県央にも鉄道が欲しいということで、昭和2年に新宿から小田原まで小田原急行電鉄が実現し、あわせて、原町田から藤沢まで江ノ島線が実現した。また、観光地化された鎌倉と藤沢を結ぶ江ノ島電車が実現した。

【相模線と相鉄線の開業】

他にも色々な鉄道計画があり、実現しなかったものも多かったが、大正10年頃には横浜と海老名を結ぶ今の相鉄線の前身である神中鉄道と、相模線の前身である相模鉄道の建設が資本を集めて動き始めた。まず相模鉄道は、大正10年に茅ヶ崎と寒川間が開通し、大正15年には今の海老名にある厚木駅まで延伸された。これは、大正12年の関東大震災で被災した東京や横浜の復興事業に伴い、相模川の砂利を被災地まで運ぶ役割を担ったことが大きい要因である。

同じ時期に海老名で神中鉄道がスタートし、相模鉄道との相乗効果で沿線一帯が非常に栄え始めていき、関東大震災後は、軍の施設や学校が横浜線・小田急線・相模線に囲まれた三角形部分に集まってくることで、この一帯が都市化されていくようになった。

【鉄道車両の変遷】

SLではスピードを出すと頻りに止まることができないなどの問題があったため、昭和になると、外国からの技術導入により、ガソリンなどを燃料とする気動車が登場した。しかし、日米開戦になったことで、日本政府が軍以外での

ガソリンなどの使用を禁止したため、横浜線は急遽電化されたが、相模鉄道については、またSLに戻ってしまった。電化はなかなか進まなかったが、平成3年に相模線の全線電化が完成した。

【相模線の国有化】

昭和18年に、東京急行電鉄が神中鉄道と相模鉄道をその傘下とし、それぞれを相模鉄道神中線と相模鉄道相模線としたが、戦時中ということもあり、主要な民間鉄道は軍需輸送のため政府による買収が行われた結果、相模線は国有化され、神中線だけが私鉄として残ることとなった。戦後には、国有化された被買収鉄道の権利を復活させる動きがあったが、相模線は私鉄に戻ることができなかったため、相模鉄道は、神中線の名称を相鉄線に変え、相鉄線のみを経営する会社となった。

【将来に向けて】

地元での相模線の複線化運動がここ10~20年続いており、また、新幹線新駅を誘致している寒川町倉見地区と相模川を挟んだ平塚市大神地区でまちづくりも進められている。新駅ができて新幹線が止まることになれば、東海道線・小田急線との人の交流も考えると、複線化も随分と話が進んでいくと思う。

現在、県内において、相模線よりも西には縦に動く鉄道がない。また、相模線も複線でないためスピードが出ないなどの問題があるが、少しずつではあるが設備等が改善されてきている。これからも、みんなで地域を愛し続け、ずっとあきらめないで良くしていこうと活動を続けていけば、徐々に時代もこちらに向いてくると思う。



講演②概要



鉄道と地域づくりを考える視点としては、「国際競争・共存」「環境」「地域・生活」「安全・安心」の4つが挙げられる。

【国際競争・共存と鉄道の役割】

国際競争はよく言われることだが、共存も必要である。ヨーロッパでは、空港と新幹線駅が直結されたつくり方が増えてきたが、アジアでは十分に進んでいない。また、アジアの4地域(日本・韓国・台湾・中国)では、それぞれ高速鉄道網が拡大してきていることから、交通網をアジアスケールで考えることも必要である。日本は島国であり、他国の交通網と直結していないため、国内を新幹線等の交通網で結びながら、外国に向けては空港でつなぐことにより、中長期的に成長している東アジアとの広域連携が可能となる。各国の高速鉄道網と国際交通網をうまく連携させることで、グローバルな視点で東アジア地域の優位性を発揮することができる。

空港と新駅との結節性の向上という点では、東北新幹線と花巻空港・九州新幹線と福岡空港を一体的に考えることにより、大陸と一体的に発展する基盤整備ができる。この地域としては、リニア中央新幹線・東海道新幹線の新駅ができれば、新幹線ネットワークによって、羽田あるいは静岡空港、また、中部空港・名古屋空港との連携も強化できることになる。海外でも事例があるが、空港会社を鉄道会社が運営する可能性も今後出てくるだろう。

空港と新駅との結節性の向上という点では、東北新幹線と花巻空港・九州新幹線と福岡空港を一体的に考えることにより、大陸と一体的に発展する基盤整備ができる。この地域としては、リニア中央新幹線・東海道新幹線の新駅ができれば、新幹線ネットワークによって、羽田あるいは静岡空港、また、中部空港・名古屋空港との連携も強化できることになる。海外でも事例があるが、空港会社を鉄道会社が運営する可能性も今後出てくるだろう。

【地球環境と都市間鉄道の時代】

鉄道は航空・自動車と比べてCO2削減効果が大きく、日本においては他国と比べても効率が良い。日本では特に鉄道で効率が良い一方で、島国であることから言うと、航空でも温室効果ガスの削減に努める必要がある。空域・航空路の再編、航空交通管理の高度化、運行方式の工夫、地上走行・駐機時の効率化等の航空技術を開発し、環境問題に対応していく必要がある。環境時代の鉄道の使命ということで、鉄道は環境にやさしい都市間交通であるとともに、技術や制度をアジアの各地に輸出し、牽引することも必要であろう。

【地域づくりと公共交通の役割】

相模線沿線地域9市1町には240万人の人口があり、巨大

な資源である。また、全国的に見ても研究機関数や大学が数多くあり、日本一ポテンシャルの大きな地域と言える。アメリカではシリコンバレーやリサーチトライアングルパークが有名だが、企業・大学数等を比べても、この地域にはそれ以上に集積している。相模原・新横浜・倉見を結んだトライアングルを、鉄道網等で連携しやすいエリアとして、何らかのブランドをつくっていくことをご提案したい。知識社会では、IT系の産業が立地してくれるような地域の優位性を高めていく必要がある。この地域は、リニア新幹線や新幹線新駅によって、どのように生まれ変わるのか、ものすごく大きな夢が描ける地域であると思う。

また、フランスでは路面電車と自転車を活用して魅力的なまちを取り戻した例や、サンフランシスコでは自転車ネットワークを戦略的に進めている例があり、世界中でどんどん増えてきている。公共交通・自転車利用・都市のコンパクト化などのヒューマンスケールでの魅力づくりにより、クリエイティブクラスが住みたいと思う居住環境や生活環境をつくることで、その地域の競争力を高めることにつながる。

【安全・安心と鉄道まちづくり】

3/11の東日本大震災で鉄道や都市の断絶が起こったが、被災地域では将来計画を持っていなかった都市があり、今、復興計画をゼロから作るようになってしまっている。早期に復旧・復興を行うためにも、平常時から地域の将来像を行政と住民が共有して取組むことが重要である。

また、これからは人口減少時代となるなか、鉄道だけを考えるのではなく、地域という視点から、鉄道をその一部に捉えて進めていくことが一層重要である。災害に強い地域にするため、平常時から持続的に取組めるような仕組みや仕組み、法制度をつくり上げる必要がある。



パネル展示・相模線写真展

❖3同盟会による県央・湘南地域における鉄道整備に関連した「パネル展示」を行いました。



❖村田孝氏相模線写真展・鉄道模型展示を行いました。



平成23年度「夢はこぶ新幹線・夢ひらくまち」絵画コンクール

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会では、普及啓発活動として、ツインシティの地元である平塚市・寒川町の小学生を対象に、絵画コンクール実施しています。

「夢はこぶ新幹線・夢ひらくまち」をテーマとして、平成23年度は、27校681作品の応募がありました。

応募作品の中から、入賞作品12点を表彰しましたので紹介します。(県知事賞を表紙で紹介)

平塚市長賞



低学年の部 岩崎 斗垂さん
(平塚市立豊田小学校1年)



中学年の部 武藤 有咲さん
(平塚市立吉沢小学校3年)



高学年の部 窪田 瑤さん
(平塚市立富士見小学校5年)

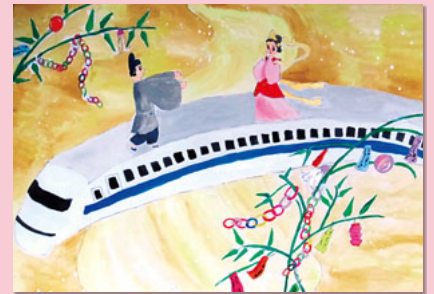
寒川町長賞



低学年の部 宮城 有佑さん
(寒川町立一之宮小学校1年)

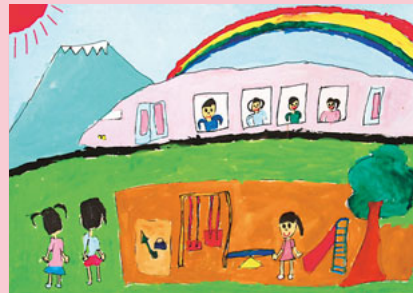


中学年の部 矢野 遥さん
(寒川町立南小学校4年)



高学年の部 大角 日南子さん
(寒川町立旭小学校6年)

ツインシティ賞



低学年の部 篠原 彩夏さん
(寒川町立寒川小学校1年)



中学年の部 久保田 桃生さん
(平塚市立港小学校4年)



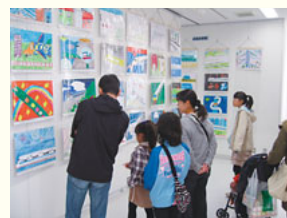
高学年の部 出井 千尋さん
(寒川町立南小学校5年)

応募作品の展示会・入賞者の表彰式を行いました。

平塚市美術館 (H23.11.3~6)



寒川町民センター (H23.11.22~25)





ツインシティにおける

環境と共生するまちづくりに向けた事例研究として、 現地視察を行いました。

「環境と共生するまちづくり検討会」(※)では、平成23年10月7日に、環境共生住宅街区の先進事例である「エコライフスクエア三島きよすみ」(静岡県三島市)と「駿河平地区」(静岡県長泉町)への現地視察を行いました。

参加者からは、「環境共生の住宅に対する関心が高まった」「より良いまちづくりのために、自分たちで地区計画などのルール作りを検討していきたい」等の意見がありました。

平成24年3月には、第10回検討会の開催を予定しており、ツインシティにおける環境と共生するまちづくりの実現に向けて、引き続き検討を進めていきます。



エコライフスクエア三島きよすみ

【特徴】

- コンセプト：エネルギーの“地産地消”
- 太陽光発電システム・家庭用燃料電池を備えた、22戸からなる街区



駿河平地区

【特徴】

- 住みよい環境を保全するため、住宅地区・文化地区・近隣店舗地区を設け、地区ごとに、建物や看板、垣柵などについてルールを設定



※「環境と共生するまちづくり検討会」(座長：齊藤進 産業能率大学教授)は、ツインシティにおける環境と共生するまちづくりについて、具体的な検討・調整を目的に設置された組織で、地元関係者や県、平塚市、寒川町で構成されています。

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会について

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会(平成8年5月発足)では、寒川町倉見地区への東海道新幹線新駅の誘致活動を行っています。同盟会を構成する県市町の窓口は、次のとおりです。

県・市町担当窓口		厚木市	まちづくり計画部都市政策課	046-223-1511(代)	
神奈川県	県土整備局環境共生都市部環境共生都市整備課	045-210-6038(直)	伊勢原市	都市部都市総務課	0463-94-4711(代)
相模原市	都市建設局まちづくり計画部都市鉄道・交通政策課	042-754-1111(代)	海老名市	まちづくり部駅周辺対策課	046-231-2111(代)
平塚市	まちづくり事業部まちづくり事業課	0463-23-1111(代)	座間市	都市部都市計画課	046-255-1111(代)
藤沢市	計画建築部都市計画課	0466-25-1111(代)	綾瀬市	企画部企画課	0467-77-1111(代)
茅ヶ崎市	都市部都市政策課	0467-82-1111(代)	寒川町	都市建設部新幹線新駅対策課	0467-74-1111(代)

お問い合わせ先：神奈川県 県土整備局 環境共生都市部 環境共生都市整備課

電話045-210-6038 FAX045-210-8879 E-mail(下記ホームページの「問合せ先」をクリックして「問い合わせフォーム」をご利用ください)

詳細については、期成同盟会のホームページをご覧ください。

新幹線新駅同盟会

検索